

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、幼保小中連携教育で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の目標を設定する。

○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ●確かな学力を着実にはぐくむ学校（学ぶ意欲を高め、確かな学力が身に付く学校） ●健やかな心と体を着実にはぐくむ学校（児童と教職員が活力に満ち、満足できる学校） ●家庭・地域から信頼され、特色ある開かれた学校（保護者が安心でき、地域が誇りに思う学校）
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ●学び続ける子ども ●心温かな子ども ●健やかな子ども
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの学ぶ意欲を高め、研究と修養に努めて誠実に努力する教職員 ●子ども一人一人のよさや可能性を見付け、励まし支える教職員 ●家庭・地域から信頼され、誇りとされる教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

区学力調査等結果においては、足立区内で概ね上位の下を示すことができた。目標値の通過率においては、86%であった。学校全体で見ると、中学年の学力に課題がみられ、高学年になるにしたがって年々改善できていることから、現在の取組を今後も概ね継続して行っていく。学習意欲に関する調査結果において「大人になったときの夢や目標をもっている」と回答する児童が平均をやや下回る等の課題がみられたが、今年度の調査では初めて区平均を上回る成果を得た。年度末の児童アンケートにおいても、「自分にはよいところがある」の項目において、3ポイント向上し、一昨年度からみると6ポイント向上した。日常の授業で、一人一人の意見や考えを引き出すように授業を構成すること、目標の明確化とめあてに沿った振り返りを確実に行うこと等を重点に授業改善を行った結果ととらえている。また、特別活動等の取組での児童の主体的な活動や、道徳やその他の教科領域で自分の考えを相互に発表し、交流する活動を重視したことも効果的であったと捉えられる。自己肯定感の向上や粘り強く学習する態度の向上につながるこれらの取組を更に重視して工夫改善し、児童の思考力・判断力・表現力等の向上を図り、主体的に学ぶ児童の育成を目指して学力向上により一層取り組む。

今後も授業改善に向けた取組を計画的に実施する。学校の全ての教職員が指導力向上の意識を停滞させず、学習指導や生活指導に優れる教員のもつスキルや心構えを他の教員に伝播させ、組織としての学力向上、学校運営を図ることが課題である。そのために、学力向上部を中心に児童の育成にかかわる課題を明確にした上で優先順位を決め、取組内容の継続、改善、変更等を行う。学力調査結果からつかんだ、読解力に関する課題について、各教科領域の様々な教育活動を生かして授業マネジメントを行い、多面的に課題改善を図る。

- ①教師の学習指導力の向上
- ②教師の学級経営力・専科経営力の向上

- ③生活指導による児童の生活習慣の改善
- ④道徳、特別活動等、全ての教科領域を踏まえた取組と、それを生かしたカリキュラムの工夫改善
- ⑤特別な支援を必要とする児童への指導の工夫改善
- ⑥児童の学習意欲、人権意識、自己肯定感など、前向きに心豊かに生きる力を高めるための取組の工夫改善
- ⑦地域・保護者、外部関係機関等の人材を活用した学習活動の工夫改善

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	◎	◎
2	思いやりの心の育成と体力の向上	○	◎	◎	◎	◎
3	特色ある教育活動の実施	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
(基礎的・基本的な学力、読解力の向上)		区学力調査目標通過率 84% (国語 83% 算数 85%)	区学力調査目標通過率 85.6% (国語 84.7% 算数 86.4%)	4月実施の区学力調査において達成基準を上回る結果であった。 12月に実施したテストでは、国語の学習の定着に課題がみられた。つまずきの解消に向けて課題を明らかに取組を継続する。 学習意欲に関する項目での伸びがみられた。 今後も意図的計画的に指導する。				◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 改善	パワーアップタイム（個別学習） 5校時前	全児童 国語 算数	火～金	【学級担任が実施】 基礎基本の習熟 学習習慣の定着 AIドリル学習 読書・読解力問題 漢字・計算 音読・短作文 ベーシックドリル	AIドリル結果 ワークシート ミニテスト他	学習時間の基 準設定 合格点の設定	・学習時間の確保と 全校の統一的な取組 ・効果的な学習教材 の使用 ・復習や反復学習の 充実 ・読解問題の継続的 な取組 ・取組内容の定期的 な見直し	学習時間の確保のため学習規律を守るなど全校で計画的に行った。基本教材に加えて、反復学習や課題を絞った学習などを学年の実態に応じて取り入れた。やり残しは放課後に行うなど、自分の学習を自分でやり抜く態度を養うことも大切にされた。今後更にAIドリルを活用し、自主的に学習する態度、集中力を養う。	○
2 継続	竹小タイム（個の時間）	全児童 国語 算数	週1回 で 年30回	【学級担任・算数が実施】 既習事項の復習 ベーシックドリル、学力調査問題、まとめ問題等	・2月実施定着 度確認テスト ・東京ベーシックドリル （7・12月）	・4月学力調査結果と同程度 ・東京ベーシックドリル正答率90%	・計画通り実施 ・課題把握と情報共有のために部会を開催して実施	実施期間を揃え、実施結果については共有して課題解決の手立てとした。時間確保のため行事や会議の精選が課題。	○
3 継続	竹の子タイム （放課後 補習学習）	抽出児童 算数 国語	月火 木金 週2回	【学級担任・専科・算数が実施】 抽出児童 個別問題・個別指導 教科書、AIドリル等	・2月実施定着 度確認テスト ・東京ベーシックドリル （7・12月）	・4月学力調査結果と同程度 ・東京ベーシックドリル正答率90%	・計画通り実施 ・課題把握と情報共有のために部会を開催して実施 ・学習時間の確保のため、清掃活動を当番制にするなど日程の工夫を継続	できる、分かる学習体験を少しでも多くもてるように、抽出児童の人数や課題別の取組に留意した。学習内容についても、個別に対応できるよさを生かし、内容の厳選と定着の両面から取り組む事を継続する。	◎

4 改善	読書活動の充実	全児童 国語 特別活動	通年	【学級担任・支援員・ボランティアが実施】 読書習慣の定着 読書環境の充実 調べ学習の充実 図書館図書を活用拡大	・読書記録 ・児童・保護者・教員・学校関係者アンケート	・記述の充実 ・肯定的な評価増加 ・環境整備の充実	・読書週間を年間3回実施 ・図書館支援員活用 ・図書館を使った調べる学習コンクール ・コロナにより中断していたボランティアによる活動、図書委員会の活動を再開	支援員の多様な実践スキルを生かし読書活動の充実を図った。読書量が増加し、調べる学習コンクールについても参加者内容共に向上した。図書学習環境の整備を進め、タブレットを活用した調べ学習のための読書室、図書室以外の読書コーナーを増設中。	◎
5 継続	竹の子がっちり教室	抽出児童 国語 算数	夏季休業中 10日間	【教員シフト制で実施】 個別補習 AIドリルの活用 休業中の学習習慣の確立 ドリル問題、プリント、ベーシックドリル等	夏季休業明け 復習テスト	合格点の設定	・計画通り実施	指導体制を整えて対応し、個別の課題、基礎基本の定着の両面から取り組んだ。体調不良者以外は全員参加できている。	◎
6 継続	小中連携・幼保小連携の充実	全児童 各教科領域	通年	【学級担任・専科・算数】 公開授業・学校訪問 多様な形態での交流授業 授業参観、研修会	教員自己評価の実施と課題改善	・小中連携年7回 ・幼保小連携年8回以上	・小中連携年7回分科会による授業公開 ・幼保小連携活動は新型コロナウイルス感染拡大により内容を精査	状況に応じ連携した。今後、取組について広く周知する。	△
7 改善	教員の授業力向上	全教員 各教科領域 学級経営 生活指導 特別支援	通年	【学級担任・専科・算数】 学級の課題把握と改善策 相互授業観察と報告 OJT研修会 研修報告・実技研修会 校内研究会 共同教材研究	教員自己評価の実施と課題改善	・授業観察 ・校内研究 ・校内研修 ・外部研修(若手・中堅等)	・算数科指導外部講師を通年で招聘しての研究授業 ・若手研修・OJT研修の毎月実施 ・校内相互研修会 ・学力向上のための調査結果分析・検討	自主的な教員研修・校内研究を積み重ね改善し一層の教員の意識向上を図る。校長をはじめ全教員で目的を共有し、取組を継続する。	○

重点的な取組事項－2		思いやりの心の育成と体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの心の育成と体力の向上		教師の自己評価・児童の自己評価 学校評価等結果・体力調査結果	宿泊を伴う体験活動、たてわり班、 クラブ委員会、中休み等での異学 年交流の工夫、学習発表、アスリ ートとの交流等	前年度の課題を生かして実施。特別活動、学 校行事等の評価ポイントが向上	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	挨拶、返事 学習規律 規則正しい生活習慣 礼儀正しい生活習慣	挨拶当番活動 学習規律の見直し、指導徹底 実態を考慮した計画的な指導 教職員自ら行動する指導 「かみきそあじ」の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主挨拶運動 ・健康観察とともに担当教員による朝の挨拶の声かけ、登校指導 ・生活指導夕会での課題解決のための集中取組を実施。特に、生活目標を意識した落ち着いた生活態度について教職員で指導。 ・生活目標の明確化、視覚化。 	教職員の意図的計画的な指導を継続する。短期的、中長期的な目標を区別し年間を通して指導することを継続する。課題を生かして生活目標をのり直しも行う。	◎
自己肯定感と主体性の育成	教師の自己評価 児童の自己評価 学力調査結果 学校評価等結果	指導内容の見直しと改善 児童ワークシート等 レジリエンス授業 心の授業 異学年交流 生活指導・特別支援との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動、特別活動、生活指導等、多面的な指導、支援 ・学校行事等での主体的な学びを重視 ・SCと共同して、心の授業を実施 ・SC, SSW等との状況に即した対応 	児童の自己評価が継続的に伸びている。取組の振り返り、工夫改善を続ける。	◎
体力を高める指導の充実	長縄チャレンジ取組 投げ方教室評価、結果 持久走取組評価、結果 体力調査結果 健康観察結果	マッスルタイム実施 指導内容の見直しと改善 適切な目標の設定と課題把握 地域保護者、外部との連携 体育学習との関連付け 保健指導との関連付け 感染症予防に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学級学年でできる取組を精査して実施 ・個人縄跳びチャレンジの実施 ・アスリートとの交流 ・養護教諭との連携した保健学習 	時程の改善を図り、外遊びの時間、体力向上の取組時間の確保をした。体育科との共同により、年間を通じた体力作りについて、計画の見直し、実施を図る。	△

重点的な取組事項－3		特色ある教育活動の実施			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
特色ある教育活動の実施		調べ、まとめ、表現する活動 図工、音楽、特別活動等に関連付けた 情操教育 体験的な学習 地域保護者・外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 活動の精査と教科と関連付けた実施 各学年数回の体験的な校外学習を実施 音楽学習の発表、学芸会等による児童の豊かな情操の育成 	今年度の成果を元に、活動内容の見直しを一層図り、効果的な取組を工夫改善して行う。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
思考力・判断力・表現力を育むため言語能力向上の取組の充実	国語学習における指導 国語の学習を生かした指導 校内研究における課題改善 校外での活動の取組	読書活動との関連付け 調べる学習コンクール 土曜子供将棋教室 俳句教室 百人一首大会	<ul style="list-style-type: none"> 校長講話の聞き取り作文の実施 夏季休業を生かした調べる学習コンクールへの参加 土曜将棋教室月1回実施 百人一首大会参加 	児童の興味や関心を重視した様々な取組を継続する。日常の学習と関連付けて行う課外的な取組を継続する。特に、将棋教室や調べる学習コンクールの参加を継続する。	○
多様な立場や考えを理解するための体験的授業の実施	体験的な学習、外部講師等による活動、地域保護者との連携による活動の実施、評価	礼法指導 環境学習 伝統的な活動や取組の体験 国際理解・ジェンダー理解	<ul style="list-style-type: none"> 子ども落語教室の実施 茶道教室は新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず 昔遊びの会の実施 	制限のある中でも可能な取組を工夫改善する。地域の人材を一層活用する。	○
豊かな心を育むため地域と連携した教育活動の実施	図工、音楽等に関連した情操教育の実施、評価 地域保護者・外部機関との連携の実施、評価 幼保小連携事業	芸術鑑賞教室 校内美術館 芸術ワークショップ エンターテイメント鑑賞 昔遊びを生かした活動 地域コンクール参加 地域行事参加 近隣幼稚園との相互交流	<ul style="list-style-type: none"> 学芸会での学習発表と交流 音楽学習発表会での異学年交流や学習交流 日常的な作品展示による校内美術館の実施 区や民間団体でのコンクール等参加・入賞者の紹介や表彰による児童の意欲付け 芸大連携によるワークショップ 	音楽や図画工作などの芸術を通じた学習活動に意欲的な児童が多いことから、日頃の学習活動の発表と、特別な機会を設けての発表とをバランスよく取り組む。鑑賞を通じた情操教育を継続する。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

- ・4月実施の区学力調査では、通過率 85.6%（国語 84.7% 算数 86.4%）であり、昨年以降の取組の成果といえる。足立区内で上位十数位に位置することを毎年継続できていることから、学校としての学力向上の取組は効果を上げている。
- ・学習意識について「勉強が好きだ」についての項目は区平均を9ポイント上回り、昨年度からも5ポイント伸びた。「学校での授業は分かる」の項目は昨年度から4ポイント伸び、区平均を3年間ではじめて上回った。これまでの指導を継続し、新たな課題と共に課題解決して取り組む。
- ・「1か月に本を2冊以上読む」についての項目も区平均を3年間ではじめて上回った。

【対策】

- ・授業では、国語の学習だけでなく他教科全般を通して、正確に読み取る、内容を分かりやすく発表する、筋道の通った文章構成を考えながら書く活動について計画的に指導することを継続する。2月に実施する学力向上のための分析会における課題の把握と対策について、次年度からは、夏休みの補習学習の指導内容に生かすなど、年間を通して計画的に実施する。
- ・算数の学習における読解力に注目し、校内研究を通して指導力の向上を図る。
- ・読書の取組を継続し、図書館の環境整備と共にすすめる。今後は、図書館を学習センターとして位置づけ、調べ学習を通して知識理解・情報活用等の能力を一層強化していく。
- ・AIドリルを活用した個別学習を継続する。一人一人のつまずきを解決しながら基礎的基本的な学習の定着を図る。担任と専科教員で指導し、指導時間の確保のための計画の立案・実行、学力向上部が適切に進行管理する。
- ・一人一台タブレット端末の活用により、ICTスキルの向上と学習内容の充実の両面から指導を行う。学校図書館内にタブレット端末を活用して学習することに特化した場所を設け、一人一人主体的に学習する活動を計画的に行う。
- ・補習学習では、児童一人一人の課題に応じて、間違えたところをその都度指導する。くり返し問題を多くして、問題になれる、問題の解き方を身に付けるよう、指導する。
- ・学校での学習に加え、家庭学習等の学習習慣の定着に向けても、ICTを活用し、授業と連携した計画的で適切な家庭学習を準備するなどして指導する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様からは、日頃から多くの温かい支援をいただいています。子供たちの幸せを第一に考え、誠心誠意ご協力くださる皆様に、教職員一同心から感謝しています。地域を愛し、子供たちを愛する皆様の思いを大切にすることを胸に刻み、地域の宝である子供たちを守り育ててまいります。学校と家庭、地域が共に手を携えて子供たちの教育にあたり、自他を愛し、自己に誇りをもつ子供たちを育てていくことを通して、私たち教師も自己に誇りを持ち、より一層の努力を重ねてまいります。これからも、竹の塚小学校に通う全ての子供たちのために、ご理解とご協力をお願いします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

「全ての教育活動は竹小に学ぶ子供たちのためにある」ことを念頭に置き、社会の変化を見据え、一人一人が個人として自立し、社会の一員としてそれぞれの分野でたくましく生き抜いていくため、知・徳・体の調和のとれた育成を重視し、生きる力を身に付けさせるための教育を推進します。子供たちには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、夢を与え、感動や喜びを味わわせるとともに、保護者・地域の期待と信頼を真摯に受け止め、子供たちの健やかな成長を実現していくことが私たちの使命であることを深く自覚し、子供も、大人も誇りに思う学校づくりを目指します。